

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|------------------|
| 事業所番号 | 4271500987 | | |
| 法人名 | 有限会社UTASI | | |
| 事業所名 | グループホームうたし | | |
| 所在地 | 長崎県佐世保市鹿町町下歌ヶ浦986-38 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年2月1日 | 評価結果市町村受理日 | 平成 28 年 3 月 30 日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JigvosvoCd=4271500987-00&PrefCd=42&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構 |
| 所在地 | 長崎県島原市南柏野町3118-1 |
| 訪問調査日 | 平成 28 年 3 月 3 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

25年度より「介護教室」を開催し、家族、地域の方々の参加して頂き、毎年多数の参加を頂いている。この教室で地域と家族、ホームのつながりが出来、お互いの信頼関係が築けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者が、職員一人ひとりが自由に働ける環境づくりを積極的に取組まれた結果、職員それぞれの個性が生かされ、日々の支援に対する入居者へのかかわり方に『自分らしくあるがままに』の理念に活かされており、入居者の表情も穏やかである。代表者の補佐的役割を担う管理者も、職員と代表者との仲介役として機能しており、職員・入居者を含めた全体の雰囲気、家庭的で和気あいあいのホームである事を実感できる。また、食事に関しては、代表者家族が栽培した無農薬野菜を使用し、食の安全にも配慮されている。代表者家族は地域の役員として活躍されており、職員の一部も地域住民として地域活動に積極的に参加する事で地域と密着されており、今後の新たな取組にも期待したいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホームうたし

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 自分らしくをモットーにその一人ひとりに応じて関わりを職員が心掛けている。 | ”自分らしくあるがままに”の意味を具現化する為に、管理者はOJTを通し説明すると共に、申送りノート等を活用し職員間で共有し、お互いが支援での気付きをカバーしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地区会に所属し、地域の行事に参加し、地域の皆さんと交流を図れている。また、中学生の体験学習も積極的に受け入れている。 | 3年程前から市の委託事業として介護教室を開催し、近隣住民、利用者家族が多数出席されている。また、公民館へ車椅子の貸出、地区敬老会へ入居者の参加、近隣保育所との交流等の活動を通して地域密着の取組が行われている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 年に1回介護教室を開催し、地域の皆さんに参加を呼び掛けている。地区清掃にも可能な限り参加している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 手作り新聞による入居者の動向を報告し、職員が参加した研修内容を報告し参加者の方々からの意見も取り入れている。家族の方々にも参加いただいている。 | 行政、地区老人会役員、町内役員、民生委員、家族の出席を受け、各種報告・質疑応答等の意見交換が行われており、前回外部評価で提案のあった、全利用者家族への開催案内・会議報告も実施済みである。 | 会議の活性化に向け、テーマを設定しそのテーマに沿った講師を依頼される等の取組は以前に実施しており好評であったとの事だが、現在その取組が途切れており是非復活を期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市担当者の方に運営会議に参加してもらい、ホームの情報や実績を伝えている、会議の議事録を毎回提出している。 | 市の委託事業として介護教室開催の他、更新については支所窓口、各種報告・相談については本所長寿社会課が窓口となっており、気軽に意見交換が出来ている。包括支援センターからの入所に関する問合せもあっている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束についての研修には積極的に参加している、参加した職員は必ず報告を行い、職員全員が情報を共有できるように努めている。 | 市長寿社会課主催の研修、身体拘束廃止推進委員研修等、適宜管理者・職員が交替で出席し、報告を回覧、全職員で共有している。スピーチロック等の気付きは職員相互でフォローしている。医療的な面での緊急対応で拘束が必要となった場合に備え、同意書を作成しているが、使用の実績はない。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 外部研修にも積極的に参加を促し、所内研修も行っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 外部研修にも参加し、学びを深め研修内容を必ず報告し、必要時には活用できるようにしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居者・家族への説明時にも理解しやすいような言葉を選び、十分に理解して頂けるように努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者には、日々の観察と声掛けにより思いを引き出している、家族へは、カンファレンス・運営推進会議・家族会に参加して頂き意見や要望を聞く機会を設けている。 | 意見箱を設置すると共に、事業所便りにも相談受付の説明を記してあり、契約時には重要事項説明書に基づき第三者の相談窓口も説明している。年1度の家族会議も実施しており、家族の要望でボランティア受入等の取組が行われている。また、意向等は支援経過等に記録し職員間で共有している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議の際、意見や要望を聞き、また、日頃より相談しやすい環境を作り職員が提案しやすいように努めている。 | 申送り時、職員会議または職員と管理者との個人面談等で話合っており、勤務時間の変更・休日予定等、希望に応じ対応している。日々のさりげない会話の中で本当の想いを汲み取り、働き甲斐のある環境作りに役立っている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 勤務時間等負担にならないよう希望休がとりやすい環境をつくっている、資格手当を設けやりがいが出るよう努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 個々の職員に合った外部研修を促し、一人ひとりが意識を持っていけるにしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市のグループホーム協議会に加入し、交流会研修会においてネットワークづくりができるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 可能な限り、入居者本人に来所して頂き、実際に見学して頂いている。また、こちらから面会に出向き、ゆっくりと傾聴を行い雰囲気を作り、信頼関係を築く努力をしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所までに、本人・家族と話し合いをする場を持ち、相談しやすい環境づくりに努め対応できるように心がけている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人・家族からの相談内容により、状態に応じたサービス利用の説明を行い、選択肢を提供し対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日々の生活の中で、本人ができることを探しできるように心がけ、職員と協力して食事の準備・片づけ、清掃など行っている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 本人の情報を共有し、家族の方にも相談しやすい環境づくりに努めている。本人・家族の絆を大切に、本人の支援をしていく関係を築くよう努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族や、馴染みの方の面会、電話や手紙、外出支援、帰宅支援に努め、本人の希望に添えるように取り組んでいる。 | 家族来所時、及び入居者との日々の会話を通じて情報収集し、申送りノート等に記入しプランに反映、または外出の機会に生家訪問・墓参り等の各種支援に役立てている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 体操や学習などの活動時間の際には入居者全員に参加を促し、他入居者との交流が図れるよう努めている。家事手伝いの際にもそれぞれの役割を分担し、協力し合っている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入居者、家族の要望があれば、必要に応じた支援ができるように心がけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者本人や家族と会話を持ち、希望や意向の把握に努めるようこころがけている。 | 日々の色々な場面を通し、本人の意向を大切にしプランに役立てている。また、ヒヤリハットの原因把握の中で入居者の思いを見つけ支援に活かしている。入居者が不穏になる時は、職員が落ち着いて冷静に対応する事で落ち着くよう、入居者個々に配慮している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人や家族からの情報を参考にし、これまでの生活歴や本人が望む暮らし方が現在の生活に反映できるよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の生活の中で、本人の心身状態に合った過ごし方や、有する力を発揮できる環境を提供し、一人ひとりの状態を把握できるように努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 入居者一人ひとりに担当者を設け、日々のケアの在り方、今後の課題などを事前に話し合い、その後、家族、職員会議でケアカンファレンスを開き、意見やアイデアを反映した介護計画の作成に努めている。 | 担当職員・管理者・作成責任者でモニタリング・評価を行い、家族・本人参加をでカンファレンスを行い見直しの手順である。一人ひとりのプラン内容は実施記録に明示し、日々の支援と連動している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 入居者それぞれの介護日誌へ記録を残し、特変があった場合は付箋を用いて介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人の状態に合ったサービスが提供できるよう、職員間で話し合い、また、本人や家族の意見を取り入れ、柔軟な支援ができるよう取り組んでいる。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 老人会や地域の行事に出来るだけ参加し、地域との交流を図りながら、良い関係を作りができ、安全で楽しく生活ができるよう支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人・家族の希望を尊重し、納得されるかかりつけ医を定期的に受診し通院困難な方には往診をお願いしている。受診時には相談、報告を行い連携を図るように努めている。 | 協力医は往診対応で、別途かかりつけ医の入居者受診は職員が同行支援している。家族への結果報告は電話にて行われている。歯科は往診、専門医の受診支援も行われている。急変時は119番への連絡となっている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々の生活の中で、異常を早期発見できるよう心がけ、必要な情報を看護師に相談報告を行い、適切な対応ができるよう支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は出来る限り病院に出向き、病院関係者と情報交換や相談を行い、本人が安心して治療に専念できるよう医療機関とより良い関係づくりに努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 通院介助の際、本人の状態を主治医と話し合い、家族への報告相談を必要に応じて行っている。ホームでの出来る範囲を見極め、医療機関や他事業所と連携して支援に取り組んでいる。 | 現在、家族の要望も含め、対象者はおられないが、ホームとしてできる範囲での看取り対応は行う方針であり、指針は作成済みである。主治医等との連携体制は充分とはいえない。 | 緊急時の連絡体制整備、職員の不安軽減、対応手順等内部・外部の研修が必要と思われる。早急な取組に期待したい。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員には入居者の緊急時に備え研修に参加したり、定期的に訓練を実施している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている | 消防署の方に来て頂き、火災訓練、点検を行っている。地域の方にも協力を依頼し、緊急時の協力同意も頂いている。職員は日頃から災害の意識を高め、火災のないよう防火管理に努めている。備用品の準備も行っている。 | 職員と入居者は一緒に避難訓練を実施されている。近隣スーパー・漁協・衣料品店他16件と緊急時SOSネットワーク網を締結され協力を受ける体制ができている。 | 訓練は定期的実施されているが、全職員が消火器操作、避難時の手順を会得するためにも自主訓練の機会を増やす事をお願いしたい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者各々を尊重し、それぞれの状態に応じて、その人に合った言葉かけで対応できるように努めている。 | 基本的に苗字にさん付けで呼掛け、居室入室時はノック・声掛けされている。また、それぞれ生活歴が違うのでその人の性格に併せ尊重した声掛けが行われている。接遇については管理者が職員会議等で指導している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の思い希望が言えるような雰囲気づくりを行い、自己決定や選択できるよう働きかけ、本人の意思を確認して次の行動が行えるよう心掛けている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人の、その日の体調やその時の思いを尊重し、自分のペースで一日が過ごすことができるよう支援をしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 定期的、または、本人の希望時に行きつけの美容室へ通い本人に合ったおしゃれ、身だしなみができるよう支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 個人の能力に合わせ、お手伝い出来るよう支援している。また、献立も考えてもらえるよう声掛けを行っている。 | メニューはその日その日の在庫食材に併せ、担当職員が前日の分を参考に作っている。入居者の希望は随時取入れているが、生ものは食中毒などの関係上、不可である。個人の嗜好、形態等の注意点はキッチン内に貼ってある。希望により、外食の機会も受診帰り等に実施されている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 各々に応じた摂取量や、形態、服薬作用など考慮している、また、十分な水分量が確保できるよう、一日の水分量を把握できるようにしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、一人ひとりに声掛けを行い、見守り、一部介助を実施している。観察を行い、歯科医療受診時、報告し連携を図っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 入居者それぞれの排泄パターンを把握し、状態に応じてその都度声掛けを行っている。 | 排泄パターンにより、食前食後などの時間ごとに言葉掛けが行われている。難聴者の声掛けについては、大きな声になる事もある。失禁時の対応もプライバシーに配慮しトイレまたは居室に誘導し支援するよう取組んでいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 日々の食事や水分量を考慮し、入居者それぞれに適した、運動ができるよう声掛けをしている、薬剤必要時には、主治医に相談をし対応している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 季節に合わせた入浴支援の実施。入浴剤を準備し、希望やタイミングに合わせて声掛けを行っている。 | 週3回の入浴で2グループに分け、月水金、火木土で交替しているが入居者の事情等で柔軟に対応しており、入浴実績は業務日誌、申し送りで管理している。湯温は41℃で設定しているが希望により調整も行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 室温調整等の環境整備を行い、休息、安眠できるように支援している。日中に活動できる時間を設け、夜間良眠できるように支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬剤説明書を通院記録に添付し、職員全員が確認できるようにしている。内服変更時には、記録、申し送りを徹底し、状態変化の確認を確実にしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 力に応じた役割を持ち、張り合いや、喜びを持てるよう支援している。また、学習ドリルの取組、気分転換には散歩などを実施している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 季節の花見には必ず出かけ、希望により、散歩・買い物に出かけている。家族とともに生まれ故郷に出かけることもある。 | 好天時は近くへの散歩・買い物に出掛けており、受診時を利用して馴染みの場所へ立ち寄る事もある。行事で花見等遠出の機会もあり、現地で家族が合流する事もある。外出ができない場合は室内レクリエーション等で気分転換を図っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自立されている方は、自身でお小遣い程度の金額を所持されており、お孫さん面会時にはお小遣いをあげられることもある。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望時にはその都度準備し支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の花を飾ったり(近所からの差し入れもある)入居者の作品などを飾り生活感や季節感を取り入れるような自然な空間づくりを心掛けている。 | リビングの壁面に入居者の習字作品が展示されており、来所の家族等に好評である。ソファの配置は何度も試行錯誤し、現在、窓際に設置しエアコンの心地よい風がそよぎ、外の景色を眺めたり、仲の良い入居者同士話合われたりと格好の場所となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 一人ひとり思いのまま過ごせるよう椅子、ソファの種類や配置を考慮している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に家族にも説明し、出来るだけ使い慣れた物、好みのものを用意して頂き、本人が居心地の良い空間になるよう配慮している。 | 居室は畳の部分もあり、規格より広めの空間もあってゆとりが感じられる。使い慣れた家具類、遺影等も持込まれており、入居者にとって家庭の延長の感覚になれる場所である。室温・空調・清掃も行き届いており快適な居室である。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すりを配置し、靴を履くためのベンチの設置など、入居者が安全に持てる力を発揮し、出来るだけ自立した生活ができるよう工夫している。 | | |